

普及活動現地情報

「農業現場では、今」

令和3年9月号



【西牟婁振興局】スマート農業実践塾（果樹コース）を実施（9月29日）

和歌山県農林水産部経営支援課
(農業革新支援センター)

はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



< 目 次 >

	頁数
I 海草振興局	1-2
1. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地活性化プロジェクト】 ～「匠の技 伝道師」による研修会を開催～	
2. 新規就農者研修（基礎コース）を開催	
3. スマート農業実践塾（果樹コース）を開催	
II 那賀振興局	3
1. いちごの花芽検鏡を実施	
2. 紀の川市農業士会役員会&研修会が開催されました	
III 伊都振興局	4
1. 果樹カメムシ類調査	
IV 有田振興局	5-6
1. カメムシビーティング調査を実施！	
2. ししとうがらし「ししわかまる」が学校給食に採用される！	
3. 田んぼの学校（有田市立糸我小学校）で稲刈り体験開催！	
V 日高振興局	7
1. 水稻奨励品種決定調査現地調査に係る現地検討会を開催	
VI 西牟婁振興局	8-10
1. ミカン「YN26」の高品質安定生産技術の確立に向けて	
2. 獣害対策・狩猟の学習会を開催	
3. 分枝系ストックの育苗省力化試験	
4. スマート農業実践塾（果樹コース）を実施	
VII 東牟婁振興局	11-12
1. 重点プロジェクト【半世紀を迎えた“くろしお苺”産地の体力強化】 ～イチゴ花芽検鏡研修（第2回イチゴセミナー）を実施～	
2. 那智勝浦町の小学生がナスの収穫と袋詰めを体験	
3. 「匠の技 伝道師」による育苗（品目：たかな）の体験会・座談会	
VIII 就農支援センター	13-14
1. 農業機械の構造とメンテナンス！	
2. 技術修得研修（第1班）の営農計画発表/閉講式	

I 海草振興局

1. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地活性化プロジェクト】

～「匠の技 伝道師」による研修会を開催～

9月1日に海南市下津町内にある橋詰孝氏（匠の技 伝道師）の温州みかん園において研修会を開催した。当日は新規就農者やわかやま農業MBA 塾修了生、農業士等17名の参加があった。

研修会では橋詰氏から、昨年産の温州みかん収穫後から現在まで、各生育ステージでどのような管理をしてきたかについて気象条件の影響も交えながら詳細な説明があった。

橋詰氏の園地では裏年にも関わらず全ての樹で着果量が多く枝吊りされている。隔年結果対策として予備枝の設定とせん定、樹勢を維持する肥培管理により連年安定結果を実現している。参加者からは肥料の種類や施用のタイミング等について熱心な質問があった。

橋詰氏からは樹の状態をしっかりと観察し「毎日、樹と会話」するよう助言があった。

今後、同様の研修会を2回計画しており、海南市下津地域の若手農業者等へ隔年結果を抑えた連年結果と高品質生産技術の継承を図る。



現地研修



枝吊りされた樹

2. 新規就農者研修（基礎コース）を開催

農業水産振興課では、新規就農者の技術・経営の向上を支援するため、研修を開催している。

その1つとして、9月7日にながみね農業協同組合で、基礎コースを開催した。新規就農者6名が参加し、農業者年金総合指導員の向井元治氏から農業者年金制度について、また、

当課の宮向課長から農業簿記について説明があった。

参加した新規就農者からは、研修時間が超過したにも関わらず、農業簿記による経営管理などについて、もっと詳しく時間をかけて聞きたかったなどの意見があり、熱心に研修を受けてもらえた模様であった。

今後も技術研修等を開催し、新規就農者が地域農業の担い手となってもらえるよう支援をしていきたい。



技術・経営研修を受講する新規就農者

3. スマート農業実践塾（果樹コース）を開催

9月30日、県主催によるスマート農業実践塾（果樹コース）を海南市下津町上で開催し、農業者や、JA・県関係者約20名が参加した。

はじめに、アシストスーツ3機種についてメーカー担当者からそれぞれ説明を受けた後、装着による効果を試した。

その後、リモコン式草刈機2機種についても同様にメーカー担当者から特徴について説明を受けた後、実際に操作しながら、除草効果を確認した。

参加者からは、導入のメリットやどのような場所で導入されているか、など様々な質問が寄せられた。

当課では、今後も農業者にスマート農機への理解を深めていくため、研修会を実施していく。



アシストスーツ操作演習



リモコン式草刈り機操作演習

Ⅱ 那賀振興局

1. いちごの花芽検鏡を実施

9月にJA紀の里営農センターにおいて、那賀地方いちご生産組合連合会（会長：林真司氏）主催でいちごの花芽検鏡をのべ6回実施した。

会員が持ち込んだイチゴ苗238株について、JA紀の里営農指導員2名と農業水産振興課普及指導員2名で、顕微鏡を用いて花芽分化を確認し、適期定植に関する助言・指導を行った。

今年度の花芽分化の状況は、8月上旬に曇雨天が続いたことや9月の気温が平年より低くなったことから、バラツキがあるものの昨年度よりも早く進んでいる傾向であった。

また、経験の浅い職員を対象に、顕微鏡の映像をパソコンで表示して検鏡の手順を説明し、技術者の育成も図った。



花芽検鏡

2. 紀の川市農業士会役員会&研修会が開催されました

紀の川市農業士会（会長：妹背克紀氏、会員110名）では、農業士の資質向上と会員相互の連携を密にするとともに、地域農業のリーダーとしての活動や農業後継者の育成指導に取り組んでいる。今回、9月16日に第1回役員会を開催した。

事前に役員から、「単に役員会を開催するのではなく、役員に最低限知っておいて欲しい内容の研修を催せないか」との要望があったことから管内でも特産の桃をはじめとしたバラ科植物を加害して作物生産に問題となりつつあるクビアカツヤカミキリについて、生態をはじめ、管内における被害発生状況を交えて農業水産振興課南方普及指導員から研修を行った。

研修後、役員からは「防除に使える薬剤の種類」などの質問が上がっていた。

当課では、地域農業者のリーダーの集まりである農業士会の運営に対し、今後も会員の要望を取り入れながら会の運営を指導していく。



クビアカツヤカミキリの研修

Ⅲ 伊都振興局

1. 果樹カメムシ類調査

管内の主力果樹である柿は、果樹カメムシ類の吸汁による被害を受けやすい品目である。このため、生産者への注意喚起等、営農指導に資するために、伊都地方農業振興協議会果樹病虫害対策会議（橋本市、かつらぎ町、九度山町、JA紀北かわかみ、農業共済組合、振興局、かき・もも研究所）で、フェロモントラップ調査によるカメムシの発生予察を5～10月まで月3回行っている。また、被害状況調査として7～10月まで月1回被害果の調査を実施している。

フェロモントラップ調査では、昨年と比較してカメムシの捕獲数は多く、発生の多かった昨年並みの捕獲数となった。また、被害状況調査では、9月に入ってからカキ果実への吸汁被害も見られた。

今後も継続して調査を行い、関係機関と情報を共有して防除指導に活用する。



フェロモントラップ調査



被害果調査

IV 有田振興局

1. カメムシビーティング調査を実施！

9月7日、カメムシビーティング調査を有田農業技術者会（会長：竹田耕平氏）の構成員12名で実施した。

有田農業技術者会は、有田地方の農業の発展・振興を目的として活動している団体で、JAありだ、JAグループ和歌山農業振興センター、NOSA Iわかやま中部支所、有田川土地改良区、有田中央高校、近畿大学附属農場湯浅農場、果樹試験場、有田振興局農業水産振興課で構成されている。

調査は、例年どおり広川町と有田川町の山林15カ所で、みかんなどの果樹を加害するカメムシを対象に行う。捕獲できたカメムシの数、エサとなるスギヒノキ球果（きゅうか）の数から今後の樹園地への飛来量を予想する。

今年のカメムシ捕獲数は14匹で、去年の7匹より多かったが、近年の多い年（平成29年：51匹、平成30年：30匹）より少なかった。球果については有田川町の3地点を除いて少ないまたは無いので、カメムシが大量発生する可能性は低いと考えられる。

この結果を踏まえ、高品質な果実生産に向けた技術対策について、意識統一を行った。



捕虫網によるカメムシ
ビーティング調査

2. ししとうがらし「ししわかまる」が学校給食に採用される！

有田川町の学校給食に辛味果実の発生しないししとうがらし「ししわかまる」が採用され、9月16日、「ししわかまる」と豚肉の甘辛炒めとして金屋の小学校3校、中学校2校の給食で児童・生徒にふるまわれた。

ししとうがらしが学校給食に使われるのは初めて。「ししわかまる」を口にした児童からは「おいしい」、「辛くない」といった声があがり、全校で完食され大変好評であった。

「ししわかまる」が、辛味が苦手な方や子供でも安心して食べられるししとうがらしとして幅広く認知されるよう、振興局ではJAと連携してPRに努めている。



「ししわかまる」と豚肉の甘辛炒め

3. 田んぼの学校（有田市立糸我小学校）で稲刈り体験開催！

有田市立糸我小学校（土岐哲也校長）では、糸我地区青少年育成会主催のもと、アイガモ農法による米づくりに取り組んでいる。

9月27日には、1年生見学のもと、5年生による稲刈りが行われた。地元農家が支援し、「田んぼの学校」の校長である山崎佳彦氏（元指導農業士）指導のもと、鎌を持って稲刈りを行った。

児童は、なれない鎌を使っただけの作業であったが、楽しみながら上手に刈り取ることができた。

今後も、農業水産振興課では地域の農業者と共に、食育活動の支援を行っていく。



稲刈り体験



収穫した稲を片手に全員で記念撮影

V 日高振興局

1. 水稲奨励品種決定調査現地調査に係る現地検討会を開催

県では、自然的・経済的条件に適し、収量・品質・食味等に優れた水稲品種を奨励品種に定め、普及に努めている。選定にあたっては、県農業試験場及び県内各地域の現地ほ場において奨励品種決定調査を行い、奨励品種審査会を経て決定される。

特に近年は、出穂期以降の高温による品質低下が問題となっており、高温期の登熟性に優れる品種の選定に力を入れている。農業水産振興課では、日高町に現地調査ほ場を設置し、「あきさかり」、「にじのきらめき」、「北陸 271 号」及び「キヌヒカリ（対照品種）」の 4 品種の調査を実施した。

9 月 10 日に「北陸 271 号」と「キヌヒカリ」、9 月 21 日に「あきさかり」、「にじのきらめき」の刈取りを行うとともに、検討会を J A 紀州営農指導員と現地ほ場の生産者、当課普及指導員の 6 名で実施。当課から各品種の生育調査の結果を説明した後、参加者各自が各品種の生育状況を確認し、意見交換を行った。

生産者からは『「にじのきらめき」は短稈で良さそうだ、「北陸 271 号」も今後期待できそう』、J A 営農指導員からは『「にじのきらめき」は収量がありそうだ』、『「にじのきらめき」は株張りが良いな』等の意見が聞かれ、栽培段階では「にじのきらめき」が有望ではないかとの認識で一致した。

今後は品質評価を行い、得られたデータについて審査会に報告するとともに、J A や生産者等と連携しながら、水稲の生産安定に向けた取り組みを行っていく。



水稲生育状況の確認（9 月 10 日）

VI 西牟婁振興局

1. ミカン「YN26」の高品質安定生産技術の確立に向けて

農業水産振興課では、県育成品種「YN26」の栽培面積の拡大及び高品質栽培技術の確立を目的に、これまで2期6年にわたり現地での普及活動に取り組んできた。西牟婁地域における栽培面積は、令和2年春時点で14.2ha（苗木販売実績から推計）となっている。これまでの取り組み成果として、平成30年に「極早生温州「YN26」品種特性と導入に向けてのポイント」、令和3年に「極早生温州ミカン「YN26」栽培マニュアル（下図）」を作成し、更なる面積拡大と高品質栽培の推進を行っている。

令和3年度からは、果樹試験場が競争力アップ技術開発事業の採択を受け、西牟婁地域の栽培園地においても「YN26」の生理障害（裂果や日焼け果等）の発生要因の解明、その対策技術及び高品質果実生産技術の確立を目指すための現地調査を7月から9月までの3ヶ月間にわたり実施した。

当課では、「YN26」以外の早生温州ミカンの果実肥大・品質調査日に併せて、果樹試験場担当者と協力して果実肥大・品質調査を行い情報共有を行った。来年度も生産者やJA紀南営農指導員の協力を得ながら同様の調査を予定しており、調査から得られた知見とこれまでの成果を併せて技術の普及に努め、正品率の向上やブランド果実「紀のゆらら」の出荷率向上に寄与し、農業所得の向上を図りたいと考えている。



栽培管理のポイント（「YN26」栽培実証園での実例）

① 整枝・せん定

- 理想的な樹形は主枝を立ち気味にし、亜主枝は水平にし、果実の重みで枝が下がるように仕立てる。
- 樹勢が旺盛なため、経年の間引きせん定主体で着果量を確保する。
- 樹形を乱す上向き強いなり跡（果梗枝）を整理・せん定する。軸太果は低品質、日焼け果になりやすい。

② 摘果・新梢管理

- 着果過多の樹は早期に摘果を行い、初期の果実肥大を促す。目安は7月1日に30mm未満の小玉果、フトコロに着果した色の薄い摘果、スレ摘果など。
- スズり果は夏秋期の過乾燥や急激な水分の流入によって果実しやすすいで、早めに摘果する。
- かぶり枝のせん定は、着果率を高めるため開花期～幼果期に行う。
- 軸太の大玉果や外外りの日焼け果は、樹上選別で収穫前に切り落とす（早くちぎると秋芽が発生し、品質低下を招く）。

③ 白色透湿シートの敷設

- 敷設するタイミングは、梅雨明け直後。土壌条件により異なるが、水はけの悪い園地は表面を一度乾かしてから敷設する。
- 列種栽培の場合は、巻き上げ式マルチの方が雨水を入れた時に開閉作業を容易に行える。
- 事前にかん水チューブを設置している園地では、マルチの開閉は不要。

④ かん水（土壌水分管理）

- 梅雨明け後、8月中旬頃までは強めの乾燥ストレス（日中、葉が垂れ下がっても翌朝には元通りの状態）をかけて糖度の上昇を促す。土壌が乾燥してきたら10～20mm程度のかん水を適宜行う。
- 8月下旬以降に降雨が少ない場合は、減酸を促すために10～20mm程度のかん水を行う。

図：「YN26」栽培マニュアル（左：表面、右：裏面、令和3年3月作成）



温州ミカンの果実肥大調査

2. 獣害対策・狩猟の学習会を開催

9月14日、西牟婁地方4Hクラブ連絡協議会（会長：廣畑佳和氏、クラブ員10名）は、西牟婁振興局で獣害対策・狩猟の学習会を開催し、クラブ員8名が出席した。

クラブ員の園地でも、シカにウメの苗木を食害されたり、イノシシに石垣を壊されたりするなど被害は深刻である。獣害防止柵の設置や罠による捕獲に取り組んでいるが、害獣の習性を正しく理解できていなかったり、防止柵に隙間があったりすると、侵入防止や捕獲に十分な効果が発揮されない。

そこで農業水産振興課の松下主査から、法令や狩猟の一連の流れについて学び、特に実演を交えた猟具の説明にクラブ員は熱心に聞き入っていた。

クラブ員から事前に聞いていた「オオカミ尿に忌避効果があるのか」や「いつの肉がおいしいか」などの質問には、科学的な根拠に基づいた回答があり、理解を深めることができた。

当課では今後、獣害が発生している園地などでのフィールドワークにも取り組み、現場での実践力を鍛え、各地域で対策を行っていけるよう、引き続き獣害対策に係る活動を支援していく。



猟具の紹介



猟具の実演

3. 分枝系ストックの育苗省力化試験

西牟婁管内のすさみ町（一部白浜町）における分枝系ストック栽培では、播種床に播種し、播種後20日苗（本葉2～4枚）を仮植し、仮植約20日後の苗を本圃に定植する。この仮植は、植え替え時に一度根を切ることで、細根量を多くし、定植後の生育を良くする技術であるが、仮植作業に多大な労力がかかることから、育苗の省力化が求められている。

このため、農業水産振興課では令和元年度から断根処理による育苗方法により、仮植作業を省略しつつ、生育や開花状況、切り花品質に従来の育苗方法と遜色がないか検討している。

令和3年度では、セルトレイ（200穴）を活用した育苗方法を導入し、仮植作業を省略しつつ、生育や切り花品質に従来の育苗方法と遜色がないかを試験ほを設置し検討しており、9月17日、22日、26日、白浜町の生産者と谷普及指導員、村畑普及指導員でコーティング種子及び裸種子を200穴セルトレイの一穴に3粒ずつ播種した。慣行の育苗は天候不順で播種

床が準備できなかつたため、9月14日、17日、育苗箱に裸種子をばら播きした。

今後は八重鑑別、定植を行い、農業試験場と連携し、本技術の現地適応性を確認する。



播種作業（9月17日）



播種後10日（9月27日）

4. スマート農業実践塾（果樹コース）を実施

9月29日、標記実践塾を、田辺市秋津町の紀南農業協同組合中央集荷場および近隣圃場で開催した。農業者および関係者24名が参加し、リモコン式草刈機（2社2製品）とアシストスーツ（4社6製品）についてメーカー担当者の説明を聞いたあと、操作体験を行った。

参加者からは、リモコン式草刈機について「RJ700A（神刈）は草刈スピードが速く高性能」「思ったより操作が簡単」などの意見が多かったものの、導入に関しては「もう少し価格が安くなれば」との意見が聞かれた。

アシストスーツについては、モーターによるアシストに対して「コツをつかめば労働負荷はかなり軽減されそう」との意見が聞かれた。比較的安価で姿勢維持のアシストを目的とするスーツについては、「腰や膝がサポートされて体が軽くなった」等の意見が多く聞かれた。

農業水産振興課では、今後とも農業者にスマート農業への認識を深めてもらうため、展示会や実演会などの機会を積極的に提供していく。



リモコン式草刈機の操作講習



アシストスーツの装着体験

Ⅶ 東牟婁振興局

1. 重点プロジェクト【半世紀を迎えた“くろしお苺”産地の体力強化】

～イチゴ花芽検鏡研修（第2回イチゴセミナー）を実施～

9月17日、22日にくろしお苺生産販売組合（会長：栗野稔近氏）は、新規就農者等がイチゴの栽培管理、病害虫対策等技術を学ぶ研修「イチゴセミナー」として、花芽検鏡研修会を開催し、生産者13名（内新規就農者5名、JAトレーニングファーム研修生1名）、JAみくまの職員1名、農業水産振興課2名が参加した。

イチゴの花芽検鏡は、花芽の分化程度を確認することで、苗の定植する時期の決定や出蕾、収穫時期の予想をするための重要な作業である。

当日は、坂井普及指導員が花芽検鏡の必要性と方法について説明を行った後、研修生が「まりひめ」苗を用いて花芽検鏡の実習を行った。

参加した研修生からは、「検鏡（花芽分化の確認）の大切さが分かった」、「細かくて難しいが見られるようになりたい」などの感想があり、有意義な研修となった。また、花芽検鏡の結果、分化がやや進んでいたことから定植時期を早める指導を行った。

当課では、関係機関と連携しながら、栽培技術の向上や新規就農者の育成など、くろしお苺生産販売組合の活動を支援していく。



花芽検鏡方法の説明



花芽検鏡の実習

2. 那智勝浦町の小学生がナスの収穫と袋詰めを体験

9月16日、那智勝浦町立勝浦小学校3年生37人が、同町井鹿でナスの収穫体験を行った。この取組は、新宮周辺地場産青果物対策協議会（会長：小田三郎氏）が中心となり、地産地消推進活動の一環として管内小学校を対象に開催している。

児童たちは、ナス圃場で松本安弘氏（くろしおナス組合会長）から収穫の方法や注意点について説明を受け、松本氏や浅井普及指導員のアドバイスに従い、実のなったナスの株から傷のない大きな実を探して1個ずつはさみで収穫した。1人あたり5個のナスを収穫した。

収穫後、児童たちはJAみくまの太田営農センター集出荷場で、収穫したナスから形や大きさのそろった実3個を選び、児童が作ったオリジナルのラベルと一緒に袋詰めした。

袋詰め終了後の質問の時間には、児童から「ナスはどのように料理したら1番おいしいか?」「ナスの敵は何か?」「いつからナスを栽培しているか?」など質問が多くあり、松本

氏が経験を基に1つ1つ丁寧に回答した。

袋詰めしたナスはこの後、学習の一環として校区内の3商店で販売された。

当課では、今後も新宮周辺地場産青果物対策協議会の活動を支援していく。



ナスの収穫方法の説明



児童からの質問

3. 「匠の技 伝道師」による育苗（品目：たかな）の体験会・座談会

「匠の技 伝道師」とは、卓越した農業技術を有する農業者に対して与えられる称号で、県は今年度から次世代への匠の技術伝承活動を促進することを目的に「匠の技術伝承事業」を実施している。

那智勝浦町の塩崎一男氏は、たかなのかき葉長期収穫栽培で10aあたり8tの生産を実現する技術を持っており、6月9日に「匠の技 伝道師」に認定された。

9月14日に串本町上田原において、塩崎氏による育苗の体験会・座談会を開催し、たかな生産者4名（うち継承希望者2名）、JAトレーニングファーム研修生1名が参加した。

塩崎氏から、ペーパーポット育苗方法や播種の説明があった。ペーパーポット育苗方法は、水稲用のペーパーポットに種を2粒播き、生長してから7.5cmポットに移植し、さらに本圃に定植する方法で、生育の良い株を栽培でき欠株も少なくなる。しかし、同育苗では、労力も育苗面積もかかるため、塩崎氏から慣行128穴のセルトレイ育苗方法の説明と実演も行われた。

参加者は、たかな栽培技術の関心が高く、使用している資材の種類や価格、種の種類や播き方、定植後の栽培管理について活発な質疑応答がなされた。塩崎氏からは、「継承希望される皆に技術を伝えていきたい」との抱負があった。

これからも当課では、たかな栽培の次世代への技術伝承活動を支援する。



匠によるたかな播種の実演



たかな栽培の説明

VIII 就農支援センター

1. 農業機械の構造とメンテナンス！

9月7日就農支援センターでは、「農業機械の構造とメンテナンス」の講義を行い、社会人過程及び技術習得研修生が受講した。研修生は、草刈機・チェーンソー・動力噴霧機・管理機など農業機械の構造およびメンテナンス、混合ガソリンの作り方などの基礎知識を学んだ。さらに、実際に農機具を手に取り、安全な操作方法のレクチャーを受けた。

「今日学んだ知識を記憶が新しいうちに本研修実習で活用したい」、「将来就農したら、安全に農業機械を使いこなしたい」という声が聞かれた。



農業機械の構造（講義）



農業機械の取り扱い（草刈り機）



農業機械の取り扱い（動力噴霧器）

2. 技術修得研修（第1班）の営農計画発表/閉講式

5月17日から開始した技術修得研修（第1班）が修了した。就農支援センターでは、9月10日に営農計画発表会および閉講式を行った。5月から9月まで5か月間のうち、25日間、耕運機やトラクターなどの農機具の使い方、梅・ブルーベリー・タマネギなどの収穫、花の種まきなどに係る実習や講義を通じて、知識と農業技術を身につけた。

営農計画発表会では、修了する研修生男女8名が、これらから営農するにあたり、栽培品目や収入などの計画、就農に対する思いを熱く語った。テーマについては、「栽培技術の確立と農業経営の安定化」、「作物の成長を楽しみゆとりある農家」、「しっかり利益を出せる農業経営」など。

営農計画発表会の後、閉講式では修了証書が1人ずつ手渡された。中谷所長からは、「これから農業を行うにあたり大変なこともあります、健康が資本。就農支援センターで学んだことを忘れず、目標とする農業経営を実現できるように頑張ってください」と激励の言葉が送られた。

今年度の技術修得研修生の今後の活躍に期待したい。なお、第2班は10月より開始予定である。



営農計画発表



修了証書授与

普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4931
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489